

「暮らしの中の食」 実践発表

H28.11.8 伊那市立伊那中学校

「ふるさと伊那谷学」

- 地域を愛する心を育む
- 地域を創生する力をつける

地域のことを、地域の人と、地域のやり方で学ぶ学習

信州型コミュニティー スクールで地域の方が 学校運営に参画

※信州型コミュニティー
スクールとは、地域住民が①学
校運営参画②学校支援③学校
評価を一体的・持続的に実施

していく仕組み
既存の「よりよい教育環境
推進協議会」を、上記①②③
を実施する機関に再編し、
「伊那中学校運営委員会（仮
称）」とする。

- ・現在行っている学習ボラン
ティアによる支援を、「伊那
中学校運営委員会（仮称）」
に統合し、一体的に実施する。
- ・コーディネーターは先に決
めるのではなく、運営協議会
メンバーの中から自然に生ま
れるリーダーに依頼する。

学びの素材をできる限り 地域のひと・もの・ ことにする

※地域そのものが学習の材料
であり、生徒の生活と学習は
一体のものである

- ・H28は、全教科にお
いて、「地域」をテーマ
にした、プロジェクト学
習を位置づける。

(例)
地域の民話を学ぶ(国
語)
地域の木工さんが先生
(技術)
地域を支える人に学ぶ
(総合)

アントレプレナーシッ プ教育を中核とした キャリア教育の推進

※アントレプレナーシップ教育
とは、起業家的な精神と資
質・能力を育む教育

- ・起業されている人の人材
バンク作成
進路学習、教科学習、
キャリア教育などにおいて、
授業に参画してもらう。

- ・生徒が商品開発や販売に
関わる実体験ができるカリ
キュラム研究(「暮らしの中
の農」との関連的な学習
も研究)

「暮らしの中の食」を 推進し、体を通した学 びを推進する

※伊那谷の自然と暮らしの循環
を学校生活の日常において
体験的に学ぶ学習

- ・現在生徒会で行ってい
る畑を学級の畑とし、学
級の中核的な活動とする。

- ・地域で農業関係で起業
している人との関わりを
中心とした学習を行い、
アントレプレナーシップ
教育と関連させる。

アクティブラーニング を推進する

※アクティブラーニングとは、
教員が一方的に教えるのでは
なく、生徒が自分から進んで、
お互いに協力しながら学ぶ指
導・学習方法

- ・「解のないものでも挑
戦する」「他者とのコ
ミュニケーション力と表
現する力」「自分の考え
方や生き方を省察する
力」などをつけるために、
教師が主導する授業から、
生徒自身が作り出す授業
に変える。

- ・教師同士が共同体・協
働体になる職員研修の充
実

「地域を知る」

- 西駒登山(2年生)で自然の美しさ、厳しさを知る
- 竜西保育園の園児との交流

「地域に参画する」

- 市民祭り(伊那祭り)への参加

「地域を感じる」

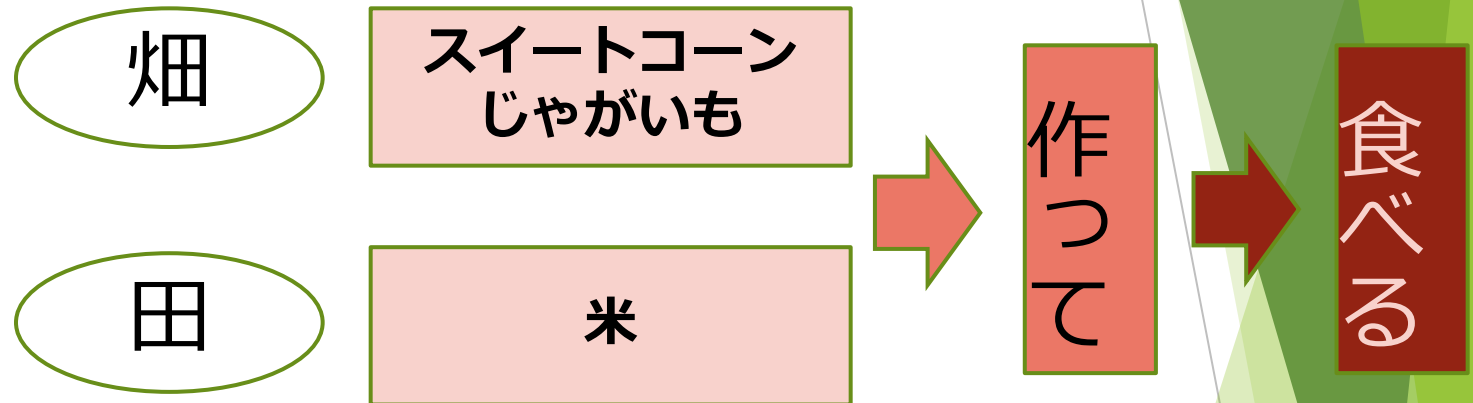
- 「暮らしの中の食」で農業が生徒の生活の一部となる体験
- 職場体験学習(2年生3日間)で勤労観・職業観を育む

「地域を考える」

- 生徒自らが調査・研究し、地域の抱える課題の解決策を考え、行政
その他に提案する(教科、総合)
- アントレプレナーシップ教育の推進

「総合的な学習の時間」活動計画

1 学年「農業体験」



2 学年「伊那谷の環境」

3 学年「アントレプレナーシップ教育」

ふるさと伊那谷を
五感を通して学ぶ

「流汗悟道」

5月16日 畑作り

土を感じる

畑の草取りをしました。
すごく根が固いのが
あって大変でした。肥
料をまくのも簡単では
ありませんでした。

無事野菜がとれるとい
いです。



5月19日 種まき

総合でスイートコーンとジャガイモの種をまきました。ジャガイモは大きいのでなかなか埋まってくれませんでした。保育園の頃、トウモロコシもジャガイモも育てたことがあるけれど、もっと本格的に世話をし、田んぼと同時進行なので、気合いを入れて頑張りたいです。

種を命として感じる



6月2日 田植え



明日は田植えです。私は田植えは初めてなのでとても楽しみです。でもしっかり等間隔に植えられるか心配です。

ふるさとの自然の中に立つ



最初は長靴でしたが、もう素足ではいろうと思い、勇気を出して素足で入りました。

土の深さで温度に違いがあることなど新しい発見もありました。

土とかかわり、土を知る

だんだん進むと地面がやわらかくなって、はまってしまいました。移動の時、重さを分散しようと思い、四つ足歩行にしたらかなり楽に歩けました。



自分の感覚だけできれいに苗を植えられるのはプロの人だからと思います。一つ一つ自分の手でやることも大切だと思うので今日はよい経験をさせてもらったと思います。



苗の向こうに人を見るようになる



改めて手で植えてみて、機械のなかった昔はとても大変だったんだなあということがよくわかったし、苦労があるおかげでおいしい米が作れるのではないかということを感じました。

信大農学部・J A選果場 での学習（10月25日）

信大農学部では

とても多くのことを学べてよかったです。お肉とか、いろんな人の苦勞した中で作られていると思うとすごいなと思いました。特に牛の研究はすごかったです。あと、ヤギがとてもかわいかったです。普段の生活の中で、いろんな周りの人の苦勞とか考えて、仕事について知りたいです。

J A選果場では

農家の人が育てた作物とかを、J Aでたくさんの手間をかけて集荷していたと言うことを、今回改めてわかりました。機械でやることだけでなく、人の目などでしっかり確認しているというのはすごく買う人も安心できるじゃないのかな、と思いました。

科学的・社会的な視点が加わり、学びが深まる

10月4日 稲刈り



今日刈ったのは一束だけでした。
機械でやっていたのははじめてみ
たけれど、とても速くて、やっぱ
り昔の人たちは、長い時間をかけ
てやっていたんだなあと思いました。
た。

教えてくれた人たちは一つ刈る
のがとても早かったです。



たった一束を大切に扱う

12月8日 収穫祭 (予定)

実践を通して考えること

体験的な学習を重視していくとき子どもたちの学びの成果は見えにくいときがある。

- 教科での「解けた」「できた」のような見え方はしない
- それは子どもたちの生活の中で微かな変化となって現れることが多い
- 学級担任が子どもたちを「見る（観る・看る）」ことが重要である。

中学校においては、どうしても活動がイベント的になり、日常化しにくい

- 学級活動・生徒会活動との関連が重要である。
- 学校において子どもたちに生活（暮らし）を作ることが不可欠。

この2つが来年度に向けた課題である。